

## しごとうた 仕事歌

さまざまな労働作業から生まれた歌を仕事歌といいます。実際の作業の中で歌われることはほとんどなくなりましたが、今でも人びとの間で歌いつがれています。

### ●田畑などで行う仕事に関する歌

→教科書58ページ「かりぼし切り歌」

田植えをするときに歌った田植え歌、草をかるときに歌った草かり歌などがあります。

### ●海や川で行う仕事に関する歌

→教科書58ページ「ソーラン節」、教科書61ページ「網のし歌」

北海道で行われていたニシン漁のときに歌ったニシン漁の歌、漁場で行われた作業のときに歌った網歌などがあります。

### ●山で行う仕事に関わる歌

のこぎりで木をひくときに歌った木びき歌、たきぎにする小枝を切ったり集めたりするときに歌った柴かり歌などがあります。

### ●交通や運送の仕事に関わる歌

→教科書60ページ「音戸の舟歌」、教科書61ページ「鈴鹿馬子歌」

馬をひいて荷物を運んでいた馬子たちが歌った馬子歌、船をこぐ船頭たちが歌った舟歌、大木や岩を大ぜいで運ぶときに歌った木やり歌などがあります。

### ●その他の仕事に関わる歌

家を建てるときなどに行う土台を固める作業で歌った地つき歌、お酒をつくるときに歌った酒づくり歌などがあります。

## おどり歌

おどりをともなって歌う歌をおどり歌といいます。盆踊りぼんおどで歌われる盆踊り歌さどがその代表的なものです。

### 【日本各地に伝わるおもな盆踊り歌】 →教科書60ページ「佐渡おけさ」

花笠音頭はながさおんど（山形県）／会津磐梯山あいづばんだいさん（福島県）／八木節やぎぶし（群馬県・栃木県）／  
日光和楽おどりにっこうわらく（栃木県）／秩父音頭ちちぶ（埼玉県）／東京音頭（東京都）／  
縁故節えんこ（山梨県）／木曾節きそ（長野県・岐阜県）／郡上節ぐじょう（岐阜県）／  
越中おわら節えっちゅう（富山県）／三国節みくに（福井県）／江州音頭こうしゅう（滋賀県）／  
福知山音頭ふくちやま（京都府）／河内音頭かわち（大阪府）／デカンショ節（兵庫県）／  
阿波よしこのあわ（徳島県）／炭坑節たんこう（福岡県）／鶴崎踊つるさきおどり（大分県）

## 座興歌

→教科書61ページ「牛深ハイヤ節」うしぶか、「江差追分」えさしおいわけ

えん会などの席で、場の雰囲気ばふんいきを盛り上げたり和ませたりするために歌った歌を座興歌なごといいます。

「牛深ハイヤ節」(教科書61ページ)は、もともと牛深港うしぶかに立ち寄った船乗りたちに親しまれていた歌です。その後日本中に広がり、各地に伝わる「ハイヤ節」「あいや節」「おけさ」などのルーツになったといわれています。

「江差追分」(教科書61ページ)は、もともと長野県で歌われていた馬子歌まごだったといわれています。北海道に伝わってさまざまな人たちによって歌いつがれ、約100年前、旋律せんりつや歌詞かしが今のような形に定着しました。現在では、毎年秋に「江差追分全国大会」が行われ、日本を代表する民謡みんようのひとつとして知られています。

## いわ 祝い歌

→教科書60ページ「祝いめでた」、教科書61ページ「宮城長持歌」

新年、婚礼、新築などのときに、これからの幸せを願って歌う歌や、豊作や大漁を感謝して歌う歌などを祝い歌といいます。

歌詞の内容はめでたく、曲の雰囲気はゆったりとして格調の高いものが多いのがとくちょうです。

## こもり 子守歌

→教科書56ページ「子もり歌」**旋律2**、教科書60ページ「月ぬ美しゃ」

子どもを眠らせたり遊ばせたりするときの歌を子守歌といいます。「江戸子守歌」という名前でも知られている「子もり歌」(教科書56ページ)の**旋律2**は、眠らせ歌の代表的なものです。

また、「月ぬ美しゃ」(教科書60ページ)のように、子守りをするために働いていた少女が歌っていた歌もあります。

監修:森重行敏(洗足学園音楽大学客員教授)